

薬剤耐性菌感染症に 対する治療薬の 最新知見と 今後の応用

開催
日時

2025年

1/25

土 11:55~12:45

座長

飯沼 由嗣先生

金沢医科大学 臨床感染症学・感染症科

演者

石井 良和先生

広島大学 IDEC国際連携機構

開催場所

名古屋国際会議場 2号館2階
第10会場
(会議室222+223)

〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

申込方法

本ランチョンセミナーは
事前申込制です。
学会HPの「ランチョンセミナー」
ページよりお申込みください。



学会HP

展示の
ご案内

本学会付設展示会にて
弊社製品を展示しております。
ぜひ弊社ブースにお立ち寄り下さい。

【展示機器・製品】

- ・全自動迅速同定・感受性測定装置 ライサス S4 (写真左)
- ・β-D グルカン測定試薬・機器 ES アナライザー (写真右)



島津ダイアグノスティクス(株)
HP

要旨

薬剤耐性菌感染症に対する 治療薬の最新知見と今後の応用

広島大学 IDEC 国際連携機構,
The Center for Planetary Health and Innovation Science (PHIS),
環境遺伝生態学分野

石井 良和 先生

β -ラクタム系薬は、アレルギー反応を除くと安全な抗菌薬であることから、重要な感染症の治療薬である。抗菌薬耐性グラム陰性桿菌 (AMR-GNO) 感染症に対する治療薬の開発は喫緊の課題であり、World Health Organization は WHO bacterial priority pathogens list の中に多くの AMR-GNO をリストアップしている。グラム陰性桿菌 (GNO) における β -ラクタム系薬に対する主要な耐性機構は β -ラクタマーゼ (BL) である。前出の WHO の priority list の上位をカルバペネム分解型 BL (CH-BL) 産生菌が占めている。これらの CH-BL 産生菌に有用な β -ラクタマーゼ阻害剤 (BLI) が開発されれば、CH-BL 産生菌を含む AMR-GNO による感染症の治療薬の選択肢となる。そのため、これまでの BLI が無効な CH-BL を含む BL を阻害できる広域スペクトルを有する BLI の臨床応用が求められ、ジアザピシクロオクタン (DBO) 系 BLI のレレバクタムとアビバクタムを含む製剤が本邦でも市販されている。これらの BLI は、KPC-型を含むクラス A およびクラス C BL を強く阻害するが、クラス B やクラス D (アビバクタムは一部阻害する) に属する BL を阻害できない。そのため、これらの BLI 配合剤を選択するためには、BL の型別が重要となる。

本講演では、DBO やバボルバクタムなどのポロン酸化合物を始めとする新規 BLI の特徴と全く新しい考え方に基づく感染症治療薬に関する情報を提供する。さらに、BL の型別のための検査法について会場の皆さまと共に確認する。